

『女性活躍!』『働き方改革!』って言うけれど...



Q すべての女性たちが、その個性と能力を十分に発揮して働ける社会を目指して「女性活躍推進法」(*)が施行され3年を経ました。女性が働くうえで重要と思われる取り組みは何でしょうか。

A 女性は、出産など、ライフ・ステージの変化や影響にとっても敏感です。そのような中において、出産・育児・介護がマイナスになってはいけません。持続可能で安心できる社会を作るためには、「就労」と「結婚・出産・子育て」、あるいは「就労」と「介護」の二者択一構造を解消する必要があります。そのためにも、ワーク・ライフ・バランス(*)を実践することが大切です。

鶴ヶ曾根在住の齋藤京子さんに、「女性の働き方」について伺いました。

齋藤さんは、農林水産省女性・就農課長、消費生活課長、中国四国農政局次長などを経て2009年退職。その後も、農業に携わる女性たちへの支援活動で活躍中です。現在は「認定NPO法人日本BPW連合会(*)」役員などを務めています。

- *日本BPW連合会：Business and Professional Womenの略、国連の経済社会理事会の諮問機関として総合協議資格を持つBPW Internationalに加盟し、あらゆる分野における男女平等の実現を目指し様々な活動を行っています。
- *女性活躍推進法：女性の職業生活における活躍の推進に関する法律(平成27年9月4日公布)の略、事業主に対する行動計画の策定を義務付けるなど、企業における女性の活躍を推進する法律。
- *ワーク・ライフ・バランス(WLB)：仕事と生活の調和、仕事一辺倒の生活を見直し、仕事以外の時間も大切にしようとする考えです。

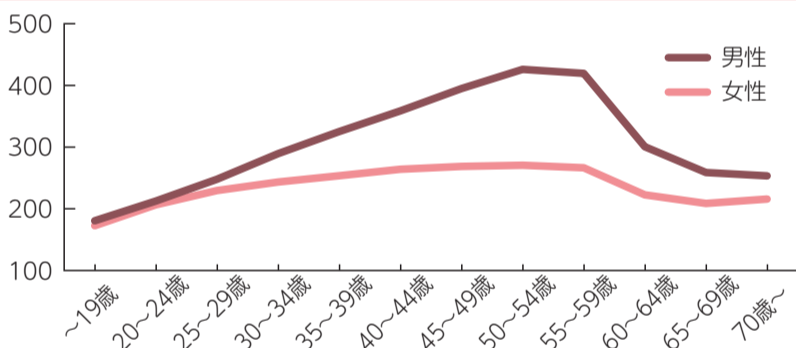
○ご存知ですか? 「イコール・ペイ・デイ」

男女の平均賃金は格差があります。男性が1年間(1~12月)働いて得た収入と同額を女性が稼ぐには、年を越えていつまで働かなくてはならないのでしょうか? 女性が男性と同額を手にする日、それが「イコール・ペイ・デイ」です。日本BPW連合会は、賃金の男女格差解消を目指して、イコール・ペイ・デイ運動を広めています。

2019年
日本のイコール・ペイ・デイ
5月13日

○男女別の賃金格差を見てみましょう。

平成30年 性別、年齢階級別賃金の推移 (単位:千円)



平成30年の平均月収、男性337,600円、女性247,500円、その格差90,100円。

女性の賃金が低い理由は様々です。

- 結婚・出産等によりキャリアの中断が余儀なくされた。
- 家事・育児の負担が大きいため、限定的な仕事にしか従事できない。
- 女性が多い職業の賃金水準が低い。
- アンコンシャス・バイアス(無意識の偏見)が根強い。等々

男女雇用機会均等法(昭和61年施行)、男女共同参画社会基本法(平成11年施行)、女性活躍推進法(平成27年施行)など、制度は徐々に整ってきましたが「働くのは男性」「家事・育児・介護は女性」など、女性は不利な条件を負う存在、労働力の補完であるといったアンコンシャス・バイアスが根強いのも原因の一つです。

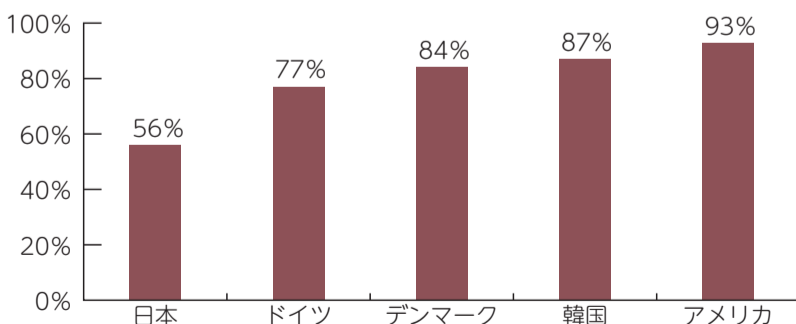
家事分担、あなたは何点?

共働き夫婦の実態を調査した「世界5カ国の「共働き」に関する意識調査」(リンナイ株)を紹介します。

調査時期：2017年12月
調査エリア：日本・韓国・アメリカ・ドイツ・デンマーク
調査対象：30~49歳 既婚者・共働き 男女500名(各国100名)
調査方法：インターネット調査

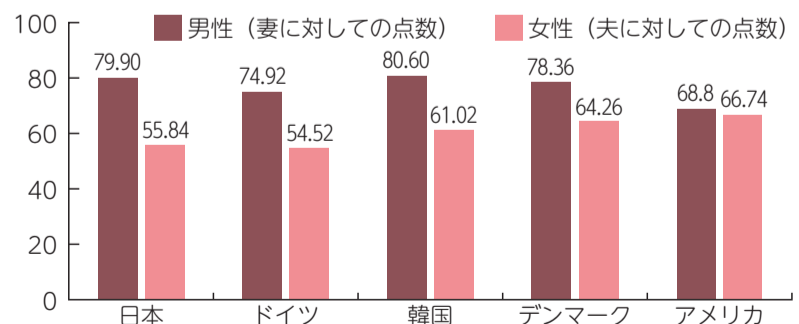


Q あなたは、配偶者(パートナー)と家事を分担していますか。(単一回答、各国N=100)



共働き夫婦の家事分担の実態を調べたところ、世界5カ国で約8割が「夫婦で家事を分担している」ことがわかりました。また、各国別で結果を見ると、家事を分担している人が最も多い国は「アメリカ」となり、家事を分担していない人が最も多い国は「日本」であることが明らかになりました。

Q あなたの配偶者(パートナー)の家事に対する協力度は、100点満点で評価するとしたら何点ですか?(単一回答、各国N=50)



配偶者(パートナー)の家事に対する協力度を100点満点で調査し、各国で男女別に結果を比べたところ、日本は男女の点数差が24.06点と最も大きくなりました。また、家事分担している人が多かった「アメリカ」は点数の男女差が一番小さい結果となりました。